JUNE2015 №.2

日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第37回日本創造学会研究大会

テーマ：「わくわく大学、きらきら企業の創造力」

日程：2015年10月3日（土）・4日（日） 会場：大阪経済大学

樋口克次
大会実行委員長
（大阪経済大学教授）

徐方啓
副実行委員長
（近畿大学教授）

樋口健夫
副実行委員長
（アイデアマラソン研究所所長）

◆特別講演◆ 10／3（土）13:00～14:30（予定）

「知と汗と涙のコミュニケーション戦略」

講演者：世耕石弘氏

近畿大学広報部長

2015年私立大学受験志願者数１位！
今、日本で最も熱い大学のコミュニケーション戦略を近大広報部長が語る

◆基調講演◆ 10／4（日）13:00～14:30（予定）

「輝く企業のCSRと創造性」

講演者：立石信雄氏

元オムロン㈱会長

東京証券取引所の2014年度企業価値向上表彰で大賞を受賞した
オムロン㈱その企業理念にもとづくCSR（企業の社会的責任）と創造性とは

◆最新鋭発想法の講義＆ワークショップ◆

10／4（日）14:40～16:30（予定）

3種類ほどの最新鋭の発想法の講義とワークショップを用意し、企業、教育の現場からの参加者が、すぐにでも活用できるような工夫を準備中です。
ご期待ください！

わくわく大学

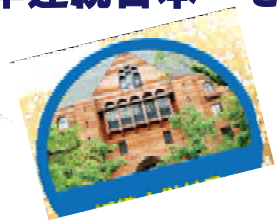
〈特別講演〉

「知と汗と涙のコミュニケーション戦略」

講演者：世耕石弘氏（学校法人 近畿大学広報部長）

●世耕石弘氏プロフィール●
1992年に大学を卒業後、近畿日本鉄道株式会社に入社。
以降、ホテル事業、海外派遣、広報担当を経て、2007年に近畿大学に奉職。入学センター入試広報課長、同センター事務長を経て、2013年4月に広報部長代理、2015年4月より広報部長、現在に至る。

受験者数2年連続日本一を達成した近畿大学のノウハウを知る！



近年、近畿大学に関する話題、例えば「マグロ大学」「受験者数日本一」「日本一派手な入学式」など、全国のマスコミに報道されています。近大のホームページをのぞいてみると、毎日のようにどこかのテレビ、ラジオ、または新聞、雑誌に近大のことが紹介されていることが分かります。なぜ、少子化が進み、どこの大学も受験者減に悩んでいる厳しい状況の中で、近大はこんな業績を作り出すことができたのでしょうか。また、「第44回フジサンケイグループ広告大賞」「第82回毎日広告デザイン大賞」「第31回読売広告大賞」を連続受賞したという事実を見ても近大の広報力は間違いなく日本一です。なぜそこまでできたのでしょうか。本特別講演において、世耕石弘氏は当事者の立場からこれまでの経験とノウハウを披露して、このような疑問を解きます。

（記事：副実行委員長・理事　徐方啓）

きらきら企業

〈基調講演〉

「輝く企業のCSRと創造性」

講演者：立石信雄氏（元オムロン㈱会長）

●立石信雄氏プロフィール●
同志社大学卒業後、コロンビア大学経営大学院留学、1959年 立石電機（現オムロン株式会社）入社、1995年代表取締役会長、2011年特別顧問(2013年まで)公職として、日本経済団体連合会の国際労働委員会委員長ほか多数歴任。各種委員会委員長多数、政府関係委員多数歴任。同志社社友。

企業価値向上表彰で大賞を受賞した企業の創造性を知る！

ある会合で、初めて立石信雄氏(元オムロン会長)の講演をお聞きした時、同氏が、日本のCorporate Governance（企業統治）とCSR（企業の社会的責任）の先駆者であり、第一人者であることを知った。同時に、彼は若い時期から創業者 である父親の立石一真氏と一緒に、オムロンのCSR運動のきっかけを作った立役者であることもお聞きした。更に、すごいことにそのオム ロンが、東京証券取引所による2014年度企業価値向上表彰で大賞を受けたことを知った。上場3400社余のトップに選ばれたのだ。

企業にとって、CSRの様な時間・資金・手間が 掛かることを積極的に推進しながら、企業価値向上という高い創造性が、オムロンでは立派に両立させていることに本当に感激した。

講演後、同氏の著書「市民と 共存する経営－21世紀型企業への新視点」と「企業の作法」（CSRが拓く企業の未来）を読み、理念に賛同し、ぜひとも、今年の日本創造学会の研究大会でお話をいただきたいとお願いしたところ、笑顔とともに快く受けていただいた。オムロンの社風と創造性、そして立石信雄氏の人柄とCSRの講演は、企業人だけでなく、学生のみなさんにも、生涯心に残り、支えてくれる糧になるだろう。楽しみにしていただきたい。

（記事：副実行委員長・理事　樋口健夫）

大 会 要 項

参加方法 ： 学会事務局までメールまたはFAXで参加申込書をご送付ください。
参加申込書はこのニューズレターに添付します。学会ホームページからもダウンロードできます。

発表申込 ： 参加申込書を記入の際に発表申込欄にご記入ください。発表要項をお送りします。

日 程 ： 2015年10月3日（土）～4日（日）

会 場 ： 大阪経済大学（所在地：大阪府大阪市 東淀川区大隅2−2−8 ）

内 容 ： 講演会・ワークショップ・懇親会・研究発表など

発表申込締切 ： 7月末日（1次締切） 研究発表論文の締切： 8月末日（厳守）

参加申込締切 ： 8月末日（1次締切）

〈発表論文掲載料〉

①原稿 （A4, 1680字）×4枚：2000円
②1枚追加ごとに1000円

※論文の査読は特にありませんが、論文執筆要綱に従った形式で投稿して下さい。記載内容は自己責任となり、訂正の依頼等は受け付けられませんのでご了承ください。

〈大会参加費〉

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み／	3000円	2500円	4000円
当日払い ／	4000円	3000円	5000円
懇親会費 ／	3000円		

※1日のみ参加希望の場合は
参加費無料、資料代（論文集含）のみで参加できます。
事前払込み／1000円 当日払い／1500円

◆大会スケジュール（予定）※都合により変更になる場合もあります

10月3日（土）1日目

時間	プログラム
9:30～	受付開始（C館1階入口）
9:55～	開会挨拶
10:00～11:30	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分）
11:30～13:00	昼休み・役員会
13:00～14:30	特別講演（中ホール） 「知と汗と涙のコミュニケーション戦略」 近畿大学広報部長 世耕石弘氏
14:30～14:40	休憩
14:40～16:10	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分）
16:10～16:25	休憩
16:25～17:25	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分）
17:30～18:00	総会・学会賞表彰式（中ホール）
18:00～18:05	日本創造学会西日本支部会合
18:20～20:00	懇親会 （学内E館7階）

10月4日（日）2日目

時間	プログラム
9:45～	受付開始
10:00～12:00	研究発表 （発表20分質疑5分交替5分）
12:00～13:00	昼休み
13:00～14:30	基調講演（中ホール） 「輝く企業のCSRと創造性」 オムロン㈱ 元会長立石信雄氏
14:30～14:40	休憩
14:40～16:30	最新発想法概要とワークショップ
16:30	閉会挨拶

懇親会のご案内

皆様のご参加をお待ちしております
会 場： 大阪経済大学学E館7階
会 費： 3,000円

2015年度会員総会開催のご案内

2015年度会員総会を10月3日17時30分より開催致します。
会員総会は全会員の参加が基本です。
参加できない場合は、学会より送付される往復葉書の返信にて、期日までに委任状をご提出下さい。

【大会会場】 大阪経済大学 大阪府大阪市 東淀川区大隅2−2−8

※大阪経済大学は新幹線の新大阪駅から3駅、首都圏からのアクセスもよく、便利な場所にあります。

電車でのアクセス

◎阪急京都線「上新庄」駅下車 徒歩約15分

◎地下鉄今里筋線「瑞光四丁目」駅下車 徒歩約2分

※新大阪駅からは御堂筋線で西中島南方（1駅）下車、阪急京都本線へ乗換、南方駅より（2駅）上新庄駅へ

阪急京都線「上新庄」駅より大阪経済大学まで

1.徒歩(約15分)

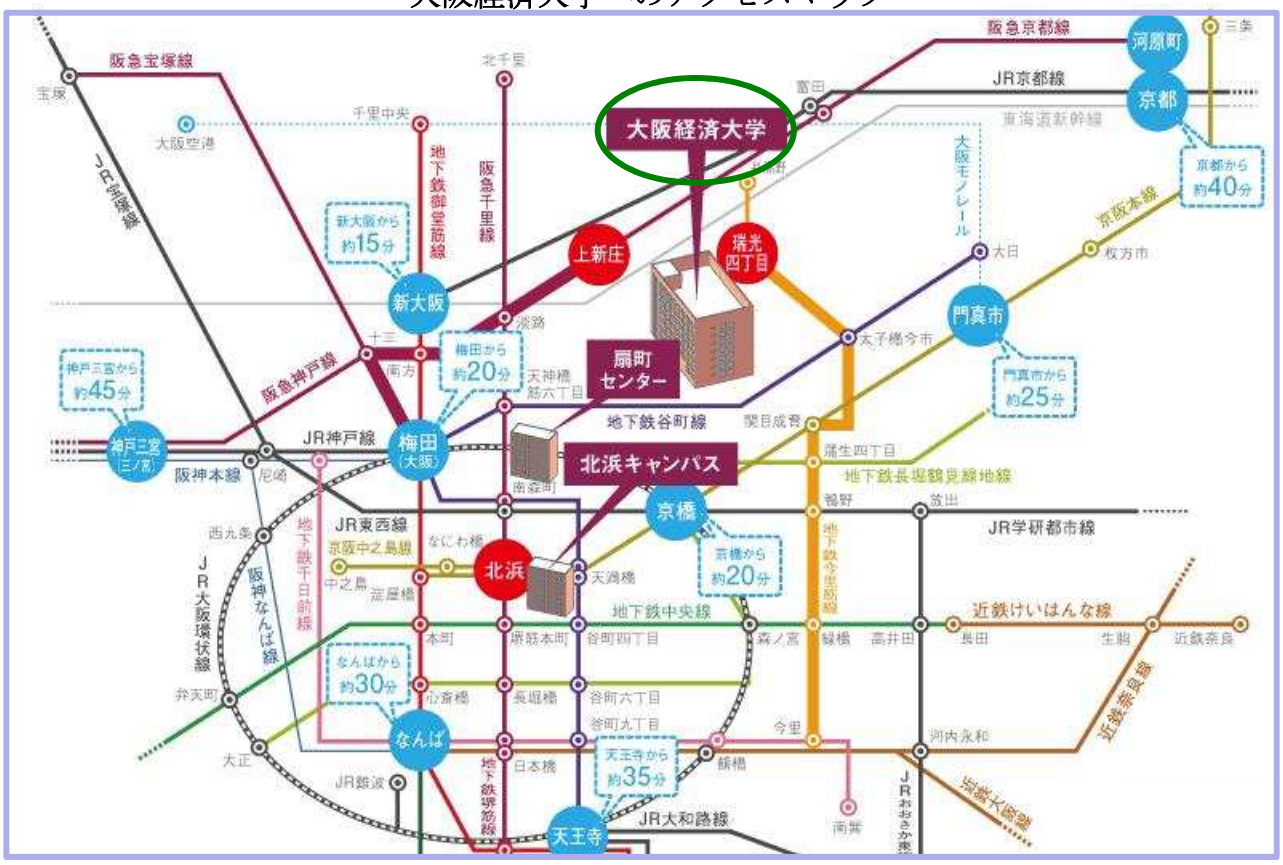
2.「上新庄」北口より市バス37・93系統

3.「上新庄」南口より市バス37B系統

2.3.ともに【井高野車庫前】行、「大阪経大前」下車

※ご宿泊につきましては、新大阪周辺にホテルが多数ありますので各自にて手配をお願い致します。

大阪経済大学へのアクセスマップ



2015年度学会誌（19号）論文投稿を募集します

当学会は通年査読なのでいつでも投稿できます

編集委員長　西浦和樹

1. 2015年9月末までに投稿され、12月末までに採録された論文が19号学会論文誌（2016年2月発刊予定）に掲載されます。ご投稿の際には、学会HP「論文を投稿したい方へ」に記載されている論文投稿要領（論文投稿規定および論文執筆要綱）をご覧ください。**2015年3月より論文投稿規定が変更になりましたのでご注意ください。**なお、論文投稿要領をクリアしていない論文は、受理できない場合があります。過去の論文誌の掲載論文例でフォームを確認するのが便利です。なお電子投稿（pdf化が前提）を歓迎します。また大多数の会員が日本人なので、投稿は原則として邦文としますが、日本語を母国語としない投稿者のために、英文も許容します。

◇論文発送先：〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9－1－1
宮城学院女子大学　発達臨床学科　西浦和樹
（電子投稿時　nishiura@mgu.ac.jp）

2. ケーススタディ（事例研究）のような実践的論文の投稿も歓迎します。採録にあたり「実践論文」などの区分記載をするかどうかは、査読者の見解を参考にして、編集委員会で個別に決定し、投稿者に打診します。なお、事例紹介のみでの投稿ではなく、オリジナリティーがあり普遍性・論理性・妥当性を持っており客観的考察がなされている論文であることが求められます。

3. 査読プロセスの公平性を高めるために、著者が誰であるか、誰の指導を受けているかをマスキングします。したがって、投稿時に当事者が特定できる文献の著者名・所属・謝辞文献は消去し、参照の文言も細心の注意を払ってください。投稿時にマスキングした論文3セット、マスキングしていない論文1セットの計4セットをご送付ください。電子投稿の場合、マスキングした論文とマスキングしていない論文の各1セットが必要です。

4. 論文発送と同時に、編集委員長にe-mailを送り、下記の5点を通知してください。
①論文タイトル、②著者名、③所属、④論文の仕上がり枚数、⑤緊急連絡先電話番号
なお、送信メールアドレスはご連絡に使用しますので通常使用されるものでお願いします。
◇西浦メールアドレス　nishiura@mgu.ac.jp

5. 論文掲載料は、第1著者が正会員の場合3万円、学生会員の場合2万円で、掲載決定時に請求します。採録時に規定枚数（20ページ）を超過した場合の超過掲載料は、1ページにつき5千円とします。

6. 投稿論文が採録され、学会誌掲載前で採録決定証明書が必要な方は申し出てください。学会編集委員会で証明書の発行を随時行います。

日本創造学会論文誌Vol.1-18　全17巻（1996年～2014年）

研究大会論文集全13巻（2002年～2014年）は学会事務局にて販売しています。

◆論文誌新刊（2014年版 Vol.18）	書籍・DVD	価格3,000円
論文誌バックナンバー　Vol. 17	書籍・DVD	価格2,000円
論文誌その他のバックナンバー	DVD	価格2,000円
◆研究大会論文集	DVD	価格2,000円

※大会論文集はDVDデータ（PC対応）となります。
発送の際には送料実費（100円程度）がかかります。
各号論文誌・論文集に採録された論文タイトルは学会HPで確認できます。

▲▼▲ 2015年3月28日第36回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

講演会： 発想支援グループウェアの研究 ～20年間の取り組み～

講演者：由井薗 隆也 北陸先端科学技術大学院准教授、日本創造学会会員

衆知を集める発想法であるKJ法に注目した発想支援システム研究が1990年代より盛んに行われている。その中、発想支援グループウェア郡元は分散利用の効果を示すことに加え、3人による効果を検討している。郡元が支援する分散協調型KJ法は、多くの意見を出す「意見入力段階」、意見からグループを作る「島作成段階」、結論としてまとめ文章を書く「文章化段階」から成る。この三段階は、ギルフオードの人間知性モデルにある発散的思考、収束的思考、評価に対応している。学生実験の結果では、3人による意見数は約50個であり、1人による意見数約30個と比べて有意に多く1。7倍となった。しかし、収束的思考等に関わる島数、文章評価では、差が見られなかった。つまり「3人の結果が1人の結果よりも良い状況が起こりづらい」ことがわかった。次に、数百意見を取り扱うため大画面共同作業インタフェースをもつ発想支援グループウェアKUSANAGIを開発した。KUSANAGIは10台の計算機を結合して、大きな作業画面を実現するとともに、複数の利用者がマウス同時操作による意見移動や島作成を行える。そして、意見数が数百個である場合、島作成作業が紙面上より効率良いという結果を示した。さらに、スロヴィツキによる集合知条件（多様性、独立性、集約性、ただし分散性を除く）を考慮した集合知型会議を検討した。その評価実験では、3人1グループの4グループが独立して意見を出し、分散協調型KJ法の作業を行った（独立性考慮）。次に、4グループの意見を用いた分散協調型KJ法の作業を行った（多様性考慮）。その際、すべての意見を集めた「意見総和型会議（意見約200枚）」と、良い意見を選んで使用した「意見選択型会議（意見約50枚）」（集約性考慮）を行った。その結果、集合知条件を多く満たす「意見選択型会議」の文章が良い結果となった。つまり「10数人が参加した会議は、集合知条件を考慮して良くできる」可能性がわかった。 （記事：会員 由井薗 隆也）

ワークショップ： 創造性で渋谷の街を切る一創造性の活用と評価

講師： 黒川利明 デザイン思考教育研究所主宰、画像電子学会理事国際標準化教育研究会委員長

実践的創造教育として、デザイン思考教育（d.School, Stanford, Potsdam）がある。いわば失敗経験を伴う試行錯誤の体験でもある(Bruce Nussbaum 2011/4)。江崎玲於奈は、前例のない試みをして失敗することを「Creative Failure」と呼んで称賛している。Creative Failureの先には発明、発見が期待出来るからである。その結果「Creative Intelligence」(Harper Business 2013)が身に付く。民間でロケット開発に挑む植松務氏や、8000メートルの深海艇「江戸っ子一号」開発に挑む 濱野慶一 氏などは後者の例である。

今回のワークショップは、地域の創造性を裏のテーマにして、東急グループを始め、各商店街が未来に向け次の渋谷作りに行動を開始しているのを念頭においた。しかし、示唆的な情報を与えず、各グループに一切を任せた形式で、探索し、情報(キーワード)を発展させ、まとめ、疑問を投げかけるグループワークをした。約5名づつ、専門が分散させるように7グループに分け、約1時間の渋谷探索をした。その方法は、各チームの自由に任せ、商店街を散歩する組、ヒカリエに集中する組、上空から眼下を観察する組など、思い思いの行動が見られた。帰室後、各グループはキーワードの提出、グルーピング、ラベル化を経て、渋谷に期待するコンセプトを選び出し、発表に至った。その例を紹介する。

- 日本のクリエイティビティを世界に発信していくマチにしよう。
- 交差点横断者50万人のパワーを生かす町にしよう。
- ビル間を有効に生かした路地文化を生かそう。
- 自然を取り入れた余裕のある高級マンション群には個性を生かそう。
- 中高年に好かれる渋谷にしよう。さもなくば、若者だけの街にしてしまえ。
- こんなに禁止、禁止のコーンや鎖、これでいいのか。
- 車道はコンクリート、歩道は親水性のレンガ構成など使途を配慮した路面設計に注目。
- 町の美的調和。奇数の窓、交差点美人、壁面植物、テーマカラーのバスなど

結果的には、テーマが重複しないユニークな発表が得られた。将来的には、これらの視点を複合させることで、都市デザイン提案に進むことになる。 （記事：理事 田村新吾）

▲▼▲2015年年5月16日第37回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

講演会： 療養者の創造的生活

講演者： 江口優子 ALOHA OLA 代表

寝たきり患者の介添え旅行、余命わずかな方を思い出の故郷同行、
修学旅行添乗看護、イベント待機看護と「どこでも看護師さん」を謳う看護師会社である。
療養者の皆様が、何を考え、どのように日々を過ごし生活をしているのか、そして家族はどのようなことを考え、日々過ごしているのか。訪問看護、旅行添乗看護を通して療養者の皆様から日々学び、看護に取り組んでいる。これらの経験から、「四肢麻痺の在宅療養者」、「人工呼吸器使用の在宅療養者」、「猫に会うため外泊した予後一カ月の入院患者」、「同窓会へ行きたい神経難病療養者」、「思い出の別荘で過ごした予後2日の入院患者」などを例示した。言葉が不自由、視聴覚が不全の人もいる方のなんらかの表現を感知し、外の人に伝え、外の意思を彼らに伝える心の繋ぎ役も看護師の役目である。

課題は、1.病院勤務の看護師の在宅療養者への理解が脆弱である。入院中の患者も、外来受診している患者も、出来れば在宅で最後まで生活したいという心を鑑み、在宅で生活するために必要な療養指導、社会資源の情報提供を院内で提供出来る体制が今後もっと望まれる。2.全ての療養者が外出や旅行をしやすい環境整備が望まれる。今後の目標は、療養者の外出・旅行における看護サービスのモデルの創出である。要するに、臨終の瞬間まで生きているということを思いやる国家、国民の創造であると感じた。
質問では、思い出ビデオや、ARの技法による旅行体験、眼球による入力など多岐にわたる質問が出た。

（記事：理事：田村新吾）

ワークショップ： 認知変容論に基づく潜在認知能力発見体験

講演者：鈴木利和 合資会社ベルノート 無限責任社員（社）地域エネルギー創発ネット理事

全員で協力しあって無我夢中になる集合天才・フローと言われる状態をゲームで疑似体験した。

4人ずつで机を囲み、机上に双六状のゴールまでの経路図を置く。それぞれ5枚ずつのカードを所有し、順にカードをもらいながら、2枚同番号になると1枚手前 に出す。同時にコマを経路図に沿って進める。その作業を繰り返し、出したカードが1から12まで並べるゲームである。相手を負かそうとするのではなく、相手を助けようとカードを選ぶのが特徴である。私たちは協力しあった方が良いことを頭でわかっていても、いざとなるとできなかったりする。それは、人と比べたり、失敗を恐れることから不安になり、闘うか、逃げるか、扁桃体ハイジャックされてしまい思考停止に陥ってしまうからだ。そうなると目先の利益・自分さえ良ければ、という行動をしてしまう。 創造活動をするために、3つのことが有効ではないかと考えている。 1.混沌とした状態に対する耐性 2.頭の使い方の偏りに気づく。 3.頭の使い方が違う人と学びあう 。

1.混沌とした状態に対する耐性 創造活動は、当初のわけがわからない状況からスタートする。その状況に圧倒されてしまわないように、注意をコントロールして、 手かがかりを見つけ、パターンを発見、応用し、 他者と共有することでスピードを増し、やがて無我夢中モード(フロー)にいたる。
ゲームはその疑似体験を与えてくれる。

2.頭の使い方の偏りに気づく 創造活動のプロセス、例えば、知識創造の方法論の”観察→概念化→モデル化→実践化”に おいて、アナロシジー、カテゴリー、マトリッ クス、プロクグレッションなどいくつかの頭の使い方か必要だが、多くの場合、頭の使い方が偏っている。そのために頭の使い 方が違う人とはうまく意思疎通が取りにくいために関わりを避けがちになる。

3.頭の使い方が違う人と学びあう Feuerstein博士は使われていない脳の部分を 鍛えるためにIEというパズルのような認知強化教材と媒介という方法を考案した。今回はIEの代わりにゲームを使い、振り返りで共通の体験からお互いの着眼点や立てた仮説の違いをもとに、自分の頭の使い方に気づき、 お互いから学び合うことを意図していた。今回は、時間の関係で媒介体験まで至ることができなかったが、次回は媒介まで体験いただければ幸いである。

（記事 ： 理事 田村新吾/鈴木利和）

＝＝国際会議報告＝＝

「経営における精神性と創造性国際会議」に参加して

国際担当理事：徐方啓

スペインのESADEビジネススクールが主催する「Spirituality & Creativity in Management World Congress」は2015年4月23日から25日にかけて、バルセロナにある同大学のキャンパスで行われた。同会議は、アメリカのマネジメント・アカデミー、国際経営・精神と宗教協会などの後援を受けたため、世界42カ国から300人が集まった。

同会議では、基調講演7本、口頭発表66本、ワークショップ35本行われた。基調講演者は、バリューセンターの創業者であるRichard Barrett会長、ケース・ウェスタン・リザーブ大学Richard Boyatzis教授、CHI取締役会議長Chris Lowney、MITのピーター・センゲ博士など著名な方々ばかりでした。とりわけ、学習する組織の研究で世界的に有名になったセンゲ博士は、多忙で来場できないながらもオンラインを利用して講演し、会場からの質問にも丁寧に答えたので、スタンディングオベーションを受けた。実は、主催者は野中郁次郎一橋大学名誉教授を基調講演者として招待しようとしたが、野中先生は同じ時期ハワイ出張のため応じることができなかった。私は「日本人はいかにしてグループ創造性を育成するのか」をテーマにする論文をもって30分の口頭発表を行った。

ESADEビジネススクールはスペインだけでなくヨーロッパにおいてもトップレベルのビジネスクールである。そのMBAコースは1964年から開講し、昨年の世界ランキングは16位（エコノミスト誌）となった。

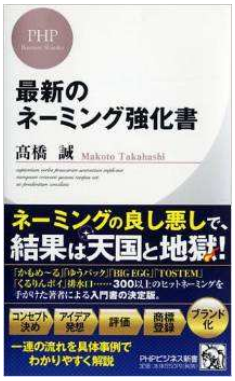
これまで、ヨーロッパで行われた創造性会議はほとんど創造性関連学会（例えば、EACI、CREAなど）が主催したが、近年他の組織もこのテーマに関心を持ち、主催するようになった。例えば、昨年イギリスのハダースフィールド大学、ヨーロッパマネジメントアカデミー、バリデカルト大学など、みな創造性会議を主催した。今年は、ESADEの他に、ドイツのロイファナ大学にも創造性会議があった。この状況を見て、創造性に関心を持つ学者と実務者が増えているのではないかと思う。

国立博物館

筆　者

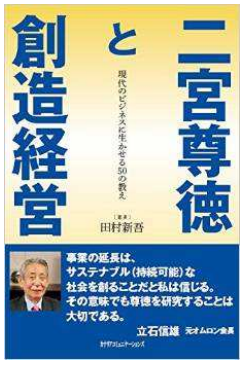
カサ・ミラ

会員著作紹介



『最新のネーミングの強化書』高橋誠著　PHPビジネス新書　918円（税込）

高橋が代表の創造開発研究所は創造性の研究と実践の会社ですが、ネーミングで東京初の会社でもあります。今まで「ゆうパック」「かもめ～る」「BIG EGG」「TOSTEM」「くるりんポイ」等、300以上のネーミングを手掛けてきました。「ネーミングの本」も何冊か出しましたが、ここ10年ほどは出していません。ところが昨年、「商標法」が大改正されました。従来は商標登録ができるのは、「文字」、「図形」、「文字と図形の組合せ」「記号」、「立体」でした。しかし本年4月1日から、新たに「動き」「ホログラム」「色彩のみ」「音」「位置」の、5商標も登録可能になりました。そこで急遽、本書を出版することにしました。これは高橋の著作としては、単著で30冊目、編著・共著を合わせると77冊目になります。（高橋誠）



『二宮尊徳と創造経営』田村新吾著　カナリヤ書房　1404円（税込）

自然界に学歴はない。二宮金次郎、のちの尊徳は200年前の農政家として600余村を廃村から復興させた巨人である。特に夜話として無学の農民を諭すために、花鳥風月の自然現象を比喩として多用した。40億歳の自然界は雄弁である。「咲けば散り散ればまた咲く花の徳」。花は状況に応じ創造的であり、永続的である。尊徳は、またナスの味に冷害を読み、村を大飢饉から救った。尊徳の現場洞察と状況判断法を研究し、生かしたのが豊田佐吉、渋沢栄一、大原孫三郎、松下幸之助、土光敏夫、稲盛和夫など近代を作り上げた経営の神たちである。本書には、尊徳が自然界から学んだ永続的創造経営のエッセンスを50取り上げた。（田村新吾）

新入会員紹介

※正会員・学生会員入会者（入会順）

※個人情報が含まれますのでWeb版では削除しました

会費納入のお願い

3月に2015年度の会費納入の書類を発送させていただきました。論文誌の発刊の遅れに伴い、年会費のご請求が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

学術団体である当学会は、会員の皆様の会費により運営されております。充実した学会活動を展開するためにも、会費納入をお願い申し上げます。

論文誌18号（2014年度版）は、2014年度会費を納入している方に送付させていただきました。納入済みで論文誌が未到着の方は事務局までお問い合わせ下さい。

↓↓会費の納入先はこちら ↓↓

【郵便振替（郵便局窓口）の場合】
00160-6-126409 （加入者名：日本創造学会） ※振替用紙をご利用ください。

【銀行振込・インターネットバンキングでの振込の場合】
ゆうちょ銀行（金融機関コード9900）店番019 店名０１９店（ゼロイチキュウ店）
当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ

事務局メッセージ

本年度の大会は大阪経済大学で開催されます。テーマは「ワクワク大学ときらきら企業の創造性」です。テーマにふさわしい大学と企業の実践をとりあげ、近畿大学のコミュニケーション戦略、価値創造大賞受賞のオムロン㈱のCSRと創造性について2本の講演会を用意しております。さらに、いくつかの実践的ワークショップを体験できる盛りだくさんの企画になっております。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2015年6月発行（№2）
日本創造学会事務局
発行人 ：櫻井敬三
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高4-7-6-816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail: jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/